



# 1. 動機

# 1-1. 研究テーマ: ウェルビーイング

今年のテーマはウェルビーイング

- ・SDGsについて学びを深めた昨年に主催した講演会から「ウェルビーイング (well-being)」という言葉がきっかけ

- ・辞書をひくと、ウェルビーイングとは健康で幸福な状態

(引用: 大辞林スーパー辞典)

→調べるとより理解が困難になったため、文献調査を開始

## 1-2. 表題について

日本の大学に通う学生は人生に満足しているのか？  
—アジア圏の大学生の国際調査を通して—

- ・アジア圏の大学生で比較した時、日本の大学に通う学生が人生に満足しているのか調査
- ・研究テーマのウェルビーイングという単語は定義が複数あったので(先行研究で説明)表題に含めなかった



## 2. 先行研究

## 2-1 . ウェルビーイングの定義

### 文献によってウェルビーイングの定義が異なる

- 自分の状態や人生に対する評価や心理的安寧  
(安寧: 社会が穏やかで平和なこと)  
(内田由紀子「これからの幸福について」より)
- 身体的、精神的、社会的にも「良い状態」のこと  
(厚生労働省 [000467969.pdf \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp/content/000467969.pdf) より)
- 個人や社会が経験するポジティブな状態のこと  
(WHO [Promoting well-being \(who.int\)](https://www.who.int/promoting-well-being) より)

## 2-2. ウェルビーイングの測定

**定義は複数あるので測定できない**

→測定する場合は定義を決める必要がある

・今回は厚生労働省の定義(身体的、精神的、社会的にも「良い状態」のこと)を用いる。

**理由**

身体的に健康な人、精神的に安定している人、社会的に恵まれている人は幸福度が高い傾向 ([佐々木健吾.indd \(ngu.ac.jp\)](#)より)

## 2-3. 文化間の考慮すべき点

ウェルビーイングの測定結果を比較することにおいて

ウェルビーイングは文化や価値観にも影響されるため、  
測定結果だけに注目すると正確な情報を得られない可能性がある

→理想像が文化によって変わってくるため

欧米: 若く健康で、高収入、外向的等

東洋: 置かれている状況になじむこと等

## 2-4 . 調査の動機(文献調査を経て)

### 問題提起

アジア圏に限定して比較したとき、日本のウェルビーイングは高いのか、低いのか

### 背景

- ・ウェルビーイングに関する研究が欧米の価値観をもとにつくられているため、アジアの数値が正しく測定出来ない場合がある
- ・アジアだけで比較した際の日本の状況を示す研究が見当たらなかった



文化的背景に共通点の多いアジア圏で調査を行いたい